

【概要版】

棚倉町地域水道ビジョン

1. 地域水道ビジョンとは

これまでの水道事業は拡張を前提に様々な施策を講じてきましたが、これからは給水人口・給水量の減少を前提に老朽化施設の更新、耐震化の促進に対応しなければならないと言う未だ経験したことがない時代を迎えています。また、環境問題の顕在化、水道サービスに対する多様化・高度化する社会的ニーズへの対応等、水道事業を取り巻く環境は大きく変化してきています。

このように来たるべき時代に求められる課題に挑戦するため**棚倉町地域水道ビジョン**を策定する事にしました。

これまで生活や経済活動を支えてきた水道の恩恵をこれからも享受できるよう将来を見据え水道の理想像を具現化するための方策等を示すものとします。

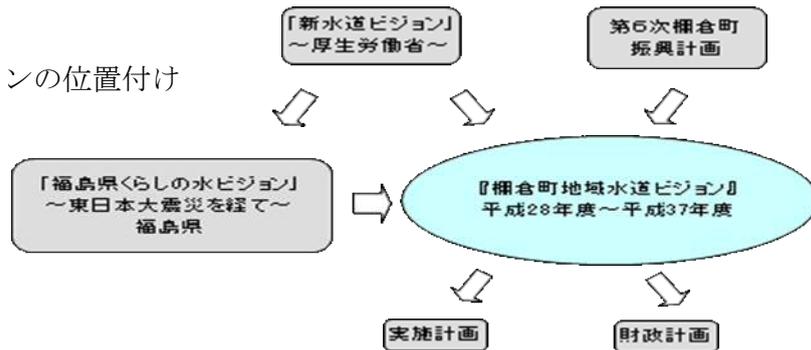
「あたりまえ そんなみずこそ たからもの」

2. 地域水道ビジョンの位置付け

この地域水道ビジョンは、厚生労働省「新水道ビジョン」及び「福島県くらしの水ビジョン」で示された水道のあるべき姿に対し、本町の水道事業の現状と課題を明確に示し、平成28年度から平成37年度までの水道経営の方向性と具体的な施策を推進するための基本的な考え方を掲げたものです。

また、事業の実施にあたっては、財政的な検討を加えた中で水道を取り巻く社会環境の変化を考慮して定期的に見直し修正を加え効率的かつ効果的な事業を推進します。

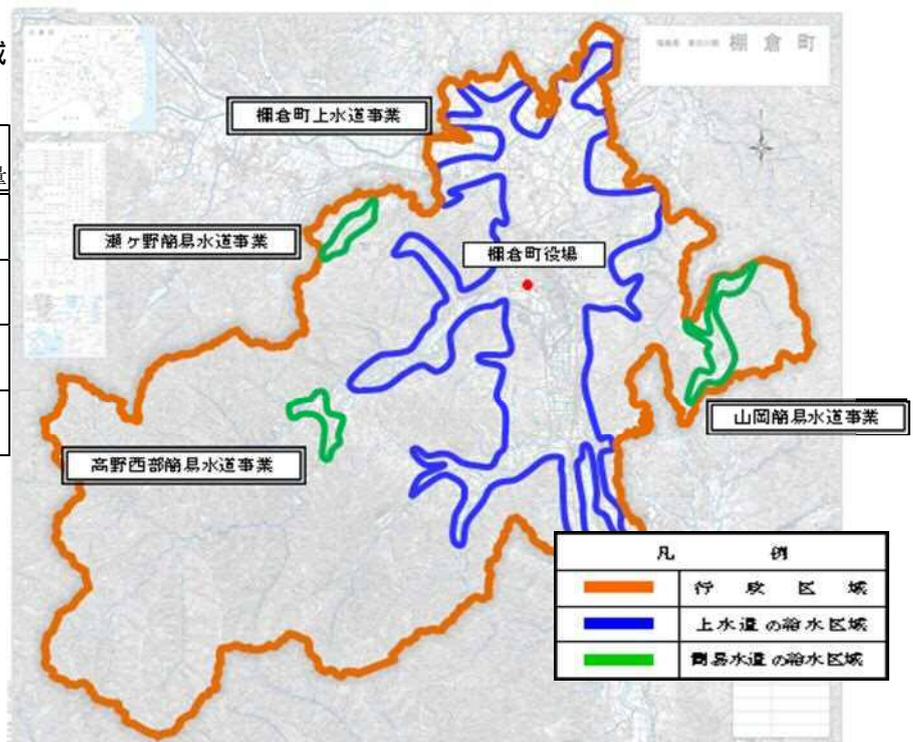
棚倉町地域水道ビジョンの位置付け



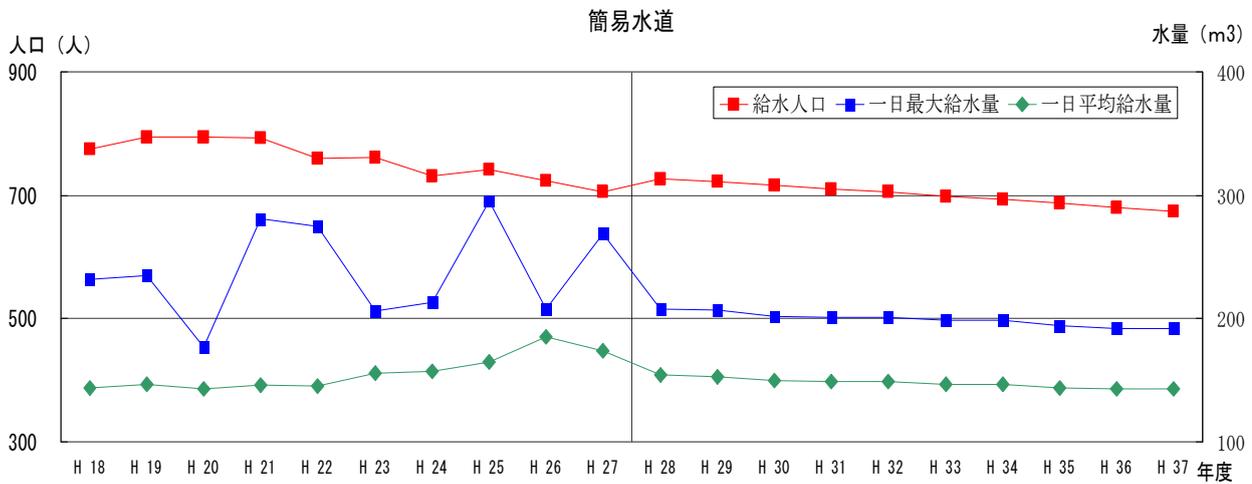
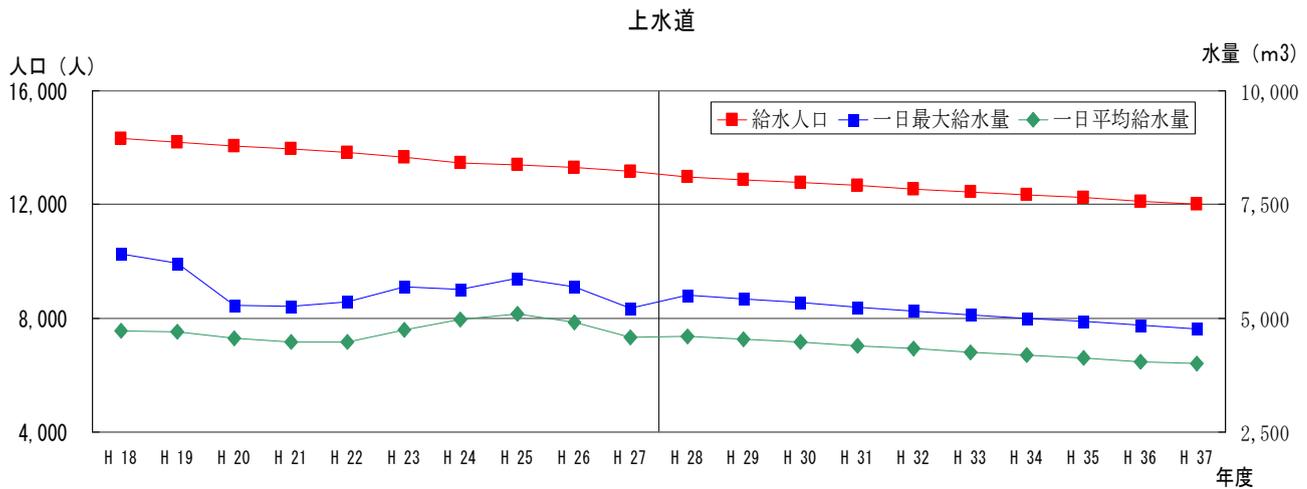
3. 現状の分析と課題

(1) 現在の水道事業及び給水区域

名称	創設認可	計画給水人	計画一日最大給水量
棚倉町上水道	S 4 1年	16,800人	8,300 m ³
山岡簡易水道	S 5 7年	490人	106 m ³
高野西部簡易水道	S 6 2年	280人	70 m ³
瀬ヶ野簡易水道	H 5年	166人	92 m ³



(2) 水需要の実績と予測



平成18年度から平成27年度までの実績、平成28年度から平成37年度までの推計値です。

行政区域内人口の過去の動態は減少傾向にあり、将来人口の予測においても、少子化等によって減少傾向が続き平成37年度には現在の92%に減少すると推計しています。

給水人口も、同様に減少していますが、一人当りの使用水量は増加傾向にあるので給水量の減少傾向は緩くなっています。

4. 課題の整理

水道の理想像

1. 【安全な水道】 ……いつでも、どこでも、水をおいしく飲める水道
2. 【強靱な水道】 ……被災を最小限にとどめ、迅速に復旧できるしなやかな水道
3. 【水道サービスの持続】 …健全かつ安定的な事業運営が可能な水道

抽出された施設・運営状況におけるそれぞれの課題は水道の理想像にそって「安全」・「強靱」・「持続」の分野に分類するとともに、取り組むべき優先度を設定しました。

～じゃ口から 安心とどけ 未来まで～

(早急に取り組むべき課題)

(1) 「安全」に関わる課題

- ・深井戸の経年による井戸の水位低下と水質悪化対策
- ・取水施設での降雨の影響による水質の濁り対策
- ・病原性微生物等による水源汚染等に対する監視強化
- ・施設の老朽化

(2) 「強靱」に関わる課題

- ・送水管路、配水管路の耐震化対策
- ・老朽施設の補強・補修等

(3) 「持続」に関わる課題

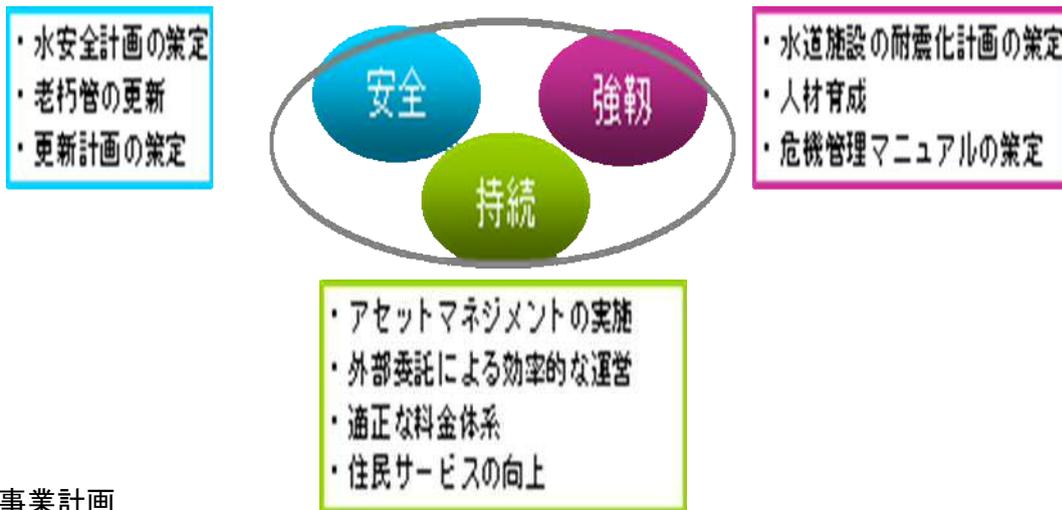
- ・老朽管、特に石綿セメント管更新が遅れている



5. 実現方策の検討

実現方策は、基本的に「アセットマネジメント」「水安全計画」「耐震化計画」の策定が必須になります。これに沿って整理した課題に対して、目標年次を設定し具体的に取り組み、推進することになります。

重点的な実現方策



(1) 水道事業計画

課題に対して平成28年度から平成37年度の主要水道事業計画は、下表のとおりです。

課題区分	事業計画	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	以降
安全	中央監視設備更新				↔							
安全	施設更新計画の策定		↔									
安全	水安全計画の策定		↔									
強靱	配水池耐震化事業											
強靱	危機管理マニュアル策定											
強靱	管路耐震化事業											
持続	アセットマネジメント策定		↔									

2) 収支計画

上水道事業

(単位：百万円)

区 分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
収益的収入	407	410	407	397	389	387	383
収益的支出	363	365	1,365	338	335	329	321
純利益	44	45	△958	59	54	58	62
資本的収入	52	18	56	84	81	196	141
資本的支出	212	181	217	199	228	341	289
補填財源	160	163	161	115	147	145	148
地方債残高	2,134	1,995	1,932	1,834	1,769	1,721	1,658

簡易水道事業

(単位：百万円)

区 分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
収益的収入	20	30	29	19	19	18	18
収益的支出	20	25	29	19	19	18	18
純利益	0	5	0	0	0	0	0
資本的収入	12	43	77	18	18	17	15
資本的支出	12	48	77	18	18	17	15
実質収支	1	1	1	1	1	1	1
地方債残高	145	166	214	196	178	161	146

(3) 財政計画

堀川ダムからの受水のための投資が負担となり施設の更新が遅れていましたが、今後は積極的に施設の更新を進めていきます。

上水道の収益は町補助金により黒字となっていますが、今後料金収入の減少に対して建設改良費の増大は確実です。将来的には水道料金の適正化について検討します。

簡易水道の収益は町繰入金によって黒字になっていますが、今後施設の更新が始るとさらに財源不足になるので、上水道事業と合理化し経営基盤の強化を図りますが、将来的には水道料金の適正化について検討する事になります。

—耐震化 命をつなぐ 水の道—